

第1回定例会 代表質問から

コロナワクチンの 接種体制について



荒木 文一
会派清新

問 コロナウイルスワクチンの接種体制の方向性はどうなるのか。また、人員確保に対する考え方とともに、接種費用の全額負担は担保されるのか、現状の認識を伺う。

答弁 接種の実施は滝川市医師会との協議により、市内医療機関での個別接種を基本に検討を進めています。前例がないことから、準備段階では課題解決に手探りで対応しており、業務内容に応じて臨時職員の採用や人材派遣などの活用による人材確保に向け調整しています。

費用については全額国が負担するとされていますが、引き続き情報収集に努めていきます。

問 努力義務としながら任意としているワクチン接種についての勧奨は国の役目と認識しているが、集団免疫の獲得効果が大きい接種率の向上について市長はどのような見解をお持ちか伺う。

答弁 感染症の拡大を抑制するための有効手段であるワクチンの接種は、多くの市民の皆さんに受けていただきたいと考えていますが、有効性や安全性、副反応のリスクを理解いただいた上での同意が前提と認識しています。接種の順番が来れば私自身も接種し、安全性を含めて情報発信できればと考えています。

問 新設予定のLED灯の交換に対する補助制度については、長期的な制度継続が求められるが方針を伺う。

答弁 LED灯へ切り替える補助制度は本年度で8年目を迎え、全体の76%を切り替えることができました。

街路灯の維持管理の実情を踏まえ、交換・移設に係る補助金を新たに設けることとしました。

長期的な制度継続については、今後も課題にあわせた見直しを行いながら対応していきます。

市長3期目折り返しにおける 市政運営について



安楽 良幸
新政会

問 令和3年度は、前田市政3期目の折り返しの年度であり、元年度、2年度は市立病院の経営悪化やコロナウイルス感染症対応により、市長が当初思い描いた政策を修正せざるを得なくなったものとする。市長の現状認識と今後の方向性について伺う。

答弁 ご指摘のとおり、昨年は、コロナウイルス感染症の影響により、さまざまな場面において、当初の予定から軌道修正が必要となり、中止や延期を余儀なくされた事業がありました。また、市立病院もコロナ禍の影響を大きく受け、経営は厳しい状況にあり、市と病院が一体となって経営改善に努めています。

新年度については、コロナウイルスの感染拡大防止と社会経済活動の支援を最優先に取り組み、この難局を乗り越えて行く所存です。とりわけ、社会経済活動を再開するためには、ワクチン接種が極

めて重要であると考え、市民の皆さんがスムーズに接種できるように準備を進めます。今後、コロナ禍による世の中の変化をどのようにまちの良さへと転換していけるかを考えながら、アフターコロナに向けた取り組みを進めていきます。

問 國學院大學北海道短期大学部との良好な関係維持について伺う。

答弁 短大部との連携については、平成27年に包括連携協定を締結し、地域人材の育成や定着など、短大部学生の皆さんに活躍していただくまちを目指して、精力的に取り組んできました。短大部からの情報提供では、入学志願の状況は良好であり、これまでの連携の成果が表れているものと考えています。引き続き地域に根付いた大学として地域貢献、地域人材の育成をお願いするとともに、今後とも、短大部並びに國學院大學との連携を密にした市政運営を行っていく所存です。